

採取土壌からイチジク株枯病菌を簡易に検出する方法

(本法は、梶谷[※])の方法を基に一部改変して作成しています)

準備物

- ・ 検定土 (茶碗 2 杯程度, 地表から 2 ~ 3 cm を除いた樹幹近くの土を採取)
- ・ ビニールコップ
- ・ おけ
- ・ ビニール袋 (おけ全体が覆える大きさ)
- ・ 木化した枝 (枝は株枯病未発生園から採取し, 調査時まで約 5℃ で冷蔵保存)

検定土の水分調整

ビニールコップに土壌を入れ, 適度に水を加える。

※ 検定土を適度な水分に調整することが重要。乾燥させると感染しにくくなり, 表面に水が溜まる程までであると枝が腐敗する。



写真 1. 土壌水分の状態 (左: 適性, 右: 過湿)

枝の挿入

枝を 5 cm 程度に切断し, 挿入する側の一部の樹皮を剥いだ後, 検定土に半分突き刺す。

※ 枝が太い場合は, 枝を割くなどして挿入することも可。



写真 2. 左: 挿入する枝, 右: 検定土に挿入した様子

培養

おけに 1 cm 程度水を張り，ビニールカップを並べ，ビニールで覆い軽く縛る（写真 3）。株枯病菌の生育適温 25℃を恒温培養器などで確保して 10 日程度静置する。
※ 調査期間中は，ビニールカップに水を追加補充する必要は無い。



写真 3. 培養時の様子（左：ビニール袋の中，右：ビニール袋で包んだ外観）

イチジク株枯病菌の観察

10 日培養後，イチジク株枯病菌の感染を確認する。
※ イチジク株枯病菌は地際部で発生し，肉眼で確認できる（写真 4）

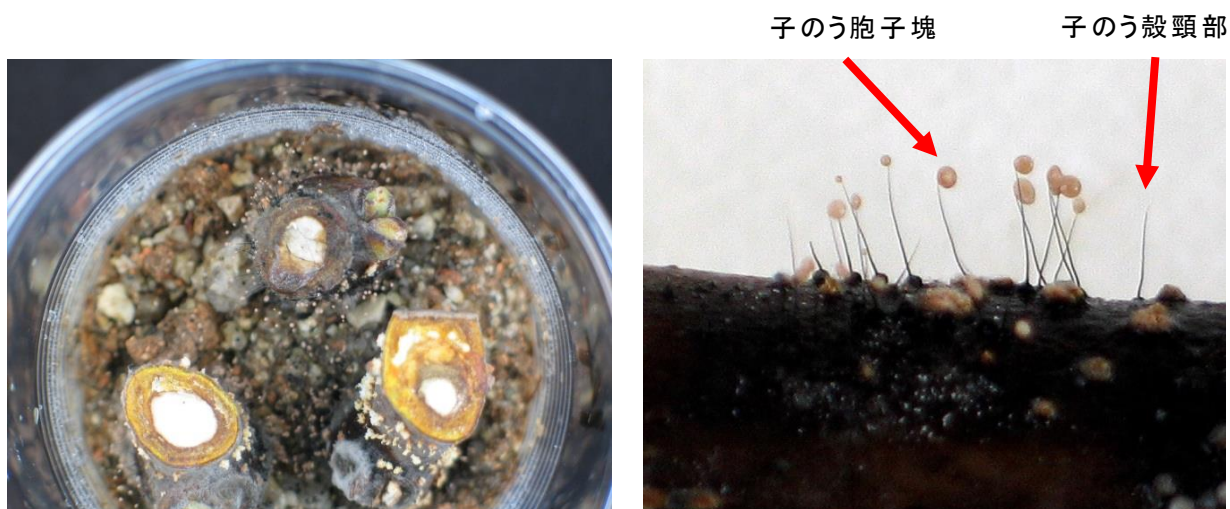


写真 4. イチジク株枯病菌（左：挿入枝に感染した株枯病菌，右：標徴拡大）
子のう殻頸部：黒く髪の毛状。長いものは，1～2 cm に達する。
子のう孢子塊：黄色く直径 0.5mm 程度の球状。

※) 梶谷裕二 (1995) 「切り枝を利用した土壌からのイチジク株枯病の簡易検出法」日本植物病理学会報 61 229.

資料作成協力：広島県立総合技術研究所農業技術センター果樹研究部